

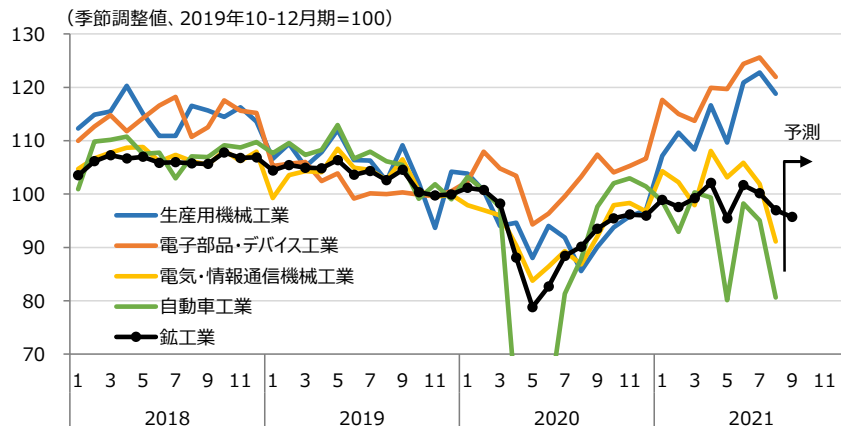
日本

鉱工業生産指数（2021年8月）

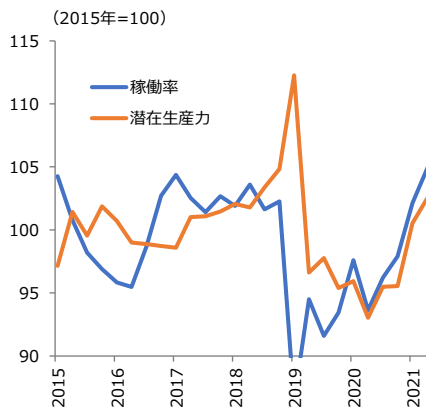
半導体・部品不足を背景に生産は2カ月連続で減少

政策・経済センター
田中康就
03-6858-2717

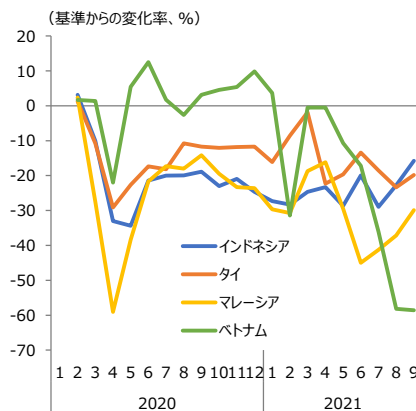
1 鉱工業生産指数



2 電子部品・デバイスの稼働率と潜在生産力



3 外出行動（仕事場、東南アジア）



評価ポイント

今回の結果

- 21年8月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比▲3.2%と、2カ月連続で低下（図表1）。コロナ危機前（19年10-12月期）の水準を再び下回った。業種別にみると、15業種のうち12業種で生産が減少した。
- 自動車工業（季調済前月比▲15.2%）は大幅に減少した。世界的な半導体需要の高まりや、夏場にかけて新型コロナウイルスの感染が拡大した東南アジアの工場停止などにより、半導体や部品が不足し、減産を余儀なくされたとみられる。
- 電子部品・デバイス工業（▲2.9%）と3カ月ぶりに減少した。もっとも、6、7月はコロナ危機前のピーク（2007年12月）を上回って過去最高水準を更新した。中国向け輸出の増加や5G、自動車の電動化に関する投資需要など旺盛な半導体需要を背景に高水準で推移している。
- 製造工業生産予測調査によると、9月の生産は、企業の予測値と実績値の平均的なズレを経済産業省が補正した値が前月比▲1.3%程度となっている。

基調判断と今後の流れ

- 生産指数は、半導体や部品の不足を背景に、減少傾向にある。
- 先行きの生産は、供給制約を背景に、弱い動きが続くと予想する。半導体はすでに稼働率が高く、稼働率上昇による生産の増加は限定的となる。21年以降、潜在生産力は増加しているものの、コロナ危機前の水準にとどまる（図表2）。また、東南アジアでは仕事場への人出が抑制されており、現地工場は本格稼働できていない模様だ（図表3）。通常稼働には徐々に移行するとみられることや日本への輸送時間も考えると、日本での半導体・部品不足の解消には時間がかかる可能性が高い。
- 先行きのリスクは、①冬場にかけての感染急拡大による経済活動抑制の再強化、②半導体・部品不足の長期化、③不動産バブルを巡る金融市場の不安定化や電力不足の長期化による中国経済の急減速、が挙げられる。